（第3種郵便物認可）

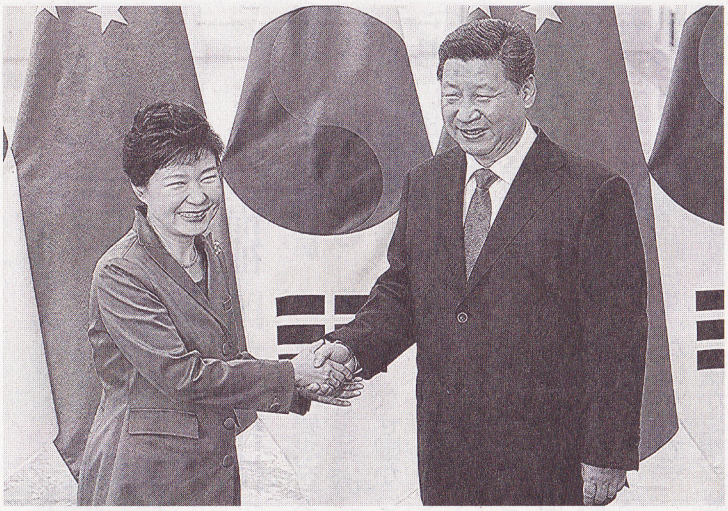
中国と「蜜月」突出
韓国 広がる懸念
FTA実質合意

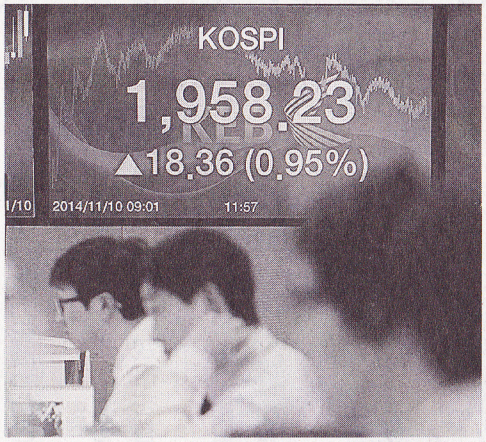
【北京＝島崎諭生】APEC出席のため北京を訪れている韓国の朴槿恵（パククネ）大統領と、中国の習近平国家主席が十日に会談し、中韓自由貿易協定（FTA）締結で実質合意した。日中首脳会談も同日行われたが、米中の主導権争いが注目される今回のAPECで、中韓が突出して蜜月ぶりを示したことに、韓国内でも懸念する意見が出ている。

FTAは来年初頭に正式署名し、来年内の発効を目指すとの内容で、二十年以内に関税撤廃の対象とする貿易品目は中国側が91％、韓国側が92％。中国にとっては、自国が加わっておらず米国主導で進む環太平洋連携協定（TPP）交渉を、けん制する目的もあるとみられる。中国は先月、自国が主導する新たな国際金融機関「アジアインフラ投資銀行」の来年中の始動に向け、インドやタイなど二十一カ国と覚書を結んだ。

日米は慎重姿勢を見せ、韓国も参加を見送ったが、崔炅煥（チェギョンファン）副首相は「中国による支配構造などの問題が解決されるなら、参加しない理由はない」と発言、波紋を広げた。韓国にとって人口十三億人を抱える中国は、影響力を持っている。

中韓FTA妥結を受け、韓国紙・中央日報（電子版）は「今回のFTA妥結によって、韓国をめぐる米国と中国の競争が激化するだろう」とする専門家の意見を紹介し、米韓軍事同盟にも影響が出ると分析。韓国の著名なニュース分析サイト「メディアス」は十日、韓国が中国への接近により、日米との協調関係で外交的に孤立する可能性があることに懸念を示した。





上10日、北京の人民大会堂で、韓国の朴槿恵大統領㊧と握手する中国の習近平国家主席
下10日、ソウルで、韓国総合株価指数（KOSPI）を示すモニターの前で取引するディーラー。中韓FTAの実質合意を受け、KOSPIは上昇した＝いずれもEPA・時事

韓国軍兵士が北に警告射撃
軍事境界線で

【ソウル＝中村清】韓国北部の京畿道（キョンギド）坡州（パジュ）市で十日午前九時四十分ごろ、非武装地帯内の南北軍事境界線に近づいた北朝鮮軍兵士十人余りに対し、韓国軍が二十発余り、警告射撃した。韓国国防省によると、北朝鮮側は応射せず、午後一時ごろに撤収したという。